

名谷すみれ苑の外出行事に付添い

- ◆当区会は名谷すみれ苑の外出行事に毎回付添っており、今年はずでに初詣とお花見に参加しています。
- ◆初詣で（1/12～19）参加者：西尾孟三/菅田忠志 榊原弥栄子/廣澤陽子/青山泰子/在間桂子/吉本清二 高津尚之/田路義弘/洲上重夫/小林重文/日野祥子 細野恵久（13人）
- ◆お花見（4/5～12）参加者：西尾孟三/菅田忠志 榊原弥栄子/長竹隆子/根木義一/吉本清二/洲上重夫 戸田貞雄/山田智恵子/早川雄一/竹内律子/船原孝子（12人）ただし期間中悪天候による中止が2日あり 田路・藤本・高津・廣澤・池邊・細野の6人キャンセルに。

活動継続はメンバーのリレーで

- ◆上記の参加者にお気づきでしょうか、初詣で、お花見ともほとんど同じ顔ぶれです。しかしこれは必ずしも歓迎すべきことではありません。活動継続のためにはメンバーが固定化せず次々と入れ替わるほうが望ましいのです。
- ◆名谷すみれ苑の次の外出行事は秋の紅葉鑑賞です。日程が決まり次第付添いボランティアを募集します。初めての方の応募を期待します。

浴後ケア19年目のピンチを救ってください

- ◆神港園サニークライフ白川での《浴後ケア》ボランティア活動は同園の設立まもなくスタートし、当区会メンバーと在校生の多くが参加しました。
- ◆以来、実績を重ねて施設から高い信頼を得、一昨年には市社会福祉協議会理事長の感謝状も受けています。
- ◆しかしメンバーの補充が進まず、古参メンバーの加齢も手伝って継続的な活動が困難になってきました。
- ◆近隣の方をお願いします。19年目を迎え、せっかくここまで積み上げてきた施設の信頼を裏切らないために、ぜひ手をお貸しください。
- ◆火曜日と金曜日の午後2時から4時まで、入所利用者が入浴した後に髪を整えてあげるかたわら、話のお相手にもなってあげます。
- ◆月間9回の活動日をメンバーで分担するので人数が多ければ1人当りの負担は軽くなるのですが、現在は僅か4人のためローテーションが組み難くなっています。
- ◆参加してくださる方、当方にご連絡ください。連絡先は表紙下欄のとおりです。

個人的な活動も〈わ〉の活動に

- ◆地域貢献活動にはグループだけでなく個人的なものもあります。学級支援などがその例です。
- ◆個人活動の動機は〈わ〉を通じて得られたものとは限りません。むしろそうでないほうが多いのです。
- ◆このような自発的な活動は〈わ〉の枠外と思われがちですが、むしろ〈わ〉の目が届かないところを先取りしていると考えべきです。これらを掘り起こし推し進めるのが〈わ〉の課題ではないでしょうか。
- ◆自ら進んで《他のために》活動されている方、当方にお知らせください。区会活動として取り上げ、サポートしたいと考えます。

区会だより33号記事の訂正

- ◆1月15日発行の《区会だより33号》の記事に数値と記述の誤りがありました。誤りを訂正して以下に記事を再録します。
- ◆〈わ〉ホームページに掲載中の同号も今回の訂正に合わせて修正しましたのでご覧ください。

**経緯とお詫び**

◆もともとの誤りは同号裏面の表「2017年の区会活動実績と参加メンバー（1月～12月）」区分「地域への貢献」のうち「青陽須磨支援学校トライやるウィーク支援」に参加した**会員名の右の数値（参加回数）を誤ってすべて1と記載**したことでした。

◆そのため活動回数を465回と合計してしまいました。しかし正しくは473回でした。本ページ最下部に訂正後の表を示します。

◆この誤った合計値をそのまま引用したことにより同号表面の記事「2017年の活動を振り返って」にも誤りが及んでしまいました。

◆不注意のために事実と異なる情報を提供したことをお詫びします。

- ◆年間の活動回数は**473回**、活動に参加したのは区会在籍者262人のうち52人でした。
- ◆活動実績を分析評価するため、これら3つの数値の関係を次のように表すことにします。

全活動回数＝区会在籍者数 × A × B

A = 活動参加者数 / 区会在籍者数 (%)

B = 全活動回数 / 活動参加者数 (回)

- ◆Aは在籍者のうち区会活動に参加した人の比率です。参加者の幅が広いほど比率が高くなります。
- ◆Bは同じ参加者が年間に活動した回数の平均値です。値が高いほどリピートへの依存度が高いことになります。
- ◆2017年のAとBの値を2016年と比べてみます。

	在籍者数	参加者数	活動回数	A	B
2016	249	59	511	23.7%	8.3
2017	262	52	473	19.8%	9.1

- ◆A値は前年より低く、B値は高くなっています。すなわち活動が限られた人に偏ってきていることを示しています。
- ◆次に在籍者を《入会後4年以上》と《入会後3年以下》とに層別し、過去3年間の経過をみてみます。

	A 値		B 値	
	4年以上	3年まで	4年以上	3年まで
2015	20.8	47.1	10.0	6.2
2016	19.6	32.9	10.9	4.8
2017	18.8	22.6	11.8	4.9

- ◆入会して3年までの層のA値の低下傾向は明らかです。またB値も4年以上の層に比べて低いことが判ります。
- ◆この傾向が今後も続くと、在籍会員数の増加に年間全活動回数がともなわず、区会活動が次第に低調となるのではないかと懸念されます。
- ◆在籍会員数相応の潜在能力を活かして地域に貢献するには、それに見合う活動の場を十分に用意するとともに、とりわけ新しい会員が参加しやすい仕組みを作る必要があります。
- ◆その上でA値＝25%、B値＝5回を目途にしてはと考えます。

「2017年の区会活動実績と参加メンバー（1月～12月）」訂正部分

		SC卒業期⇒	1・2・3	4・5・6	7・8・9	10・11・12	13・14・15	16	17	18	19	20	21・23	一般	合計
実施月		在籍人数⇒	3	7	14	31	51	18	28	18	20	31	33	8	262
地域貢献	9	青陽須磨支援学校 トライやるウィーク 支援	細野1			菅田1	廣澤1	青山2 吉本2 水野2	高津3 田路2 神澤1		齋藤2		梅田2 岸野1		20
	活動回数 小計		43	21	10	53	67	26	96	23	35	25	3	3	405
	参加者数		1	2	1	2	6	5	11	3	6	4	2	1	44
		活動回数 総計	73	21	10	53	67	26	96	30	35	31	28	3	473
2017年		参加者数	1	2	1	2	6	5	11	4	6	5	8	1	52
		女性（内数）		1		1	5	2	4	3	1	1	4	1	23

在籍者の参加比率 52/262＝ **19.8%**